

**UKIUKI**  
編集室 **UKIUKI**  
に広告を載せて  
みませんか

〒277-0053  
柏市酒井根5-4-10-3F  
☎04-7176-2747 FAX04-7176-8931

**【市原ぞうの国】**

〒290-0521  
千葉県市原市山小川937  
☎0436-88-3001  
<http://www.zounokuni.com/>  
開園時間／午前9時～午後5時  
定休日／木曜日  
(春・夏・冬休み祝日は営業)  
入園料／大人1800円  
子供(小学生) 900円  
幼児(3歳以上) 500円  
2歳以下無料



**UKIUKI**  
ウキウキする地域生活情報紙 1月13日 第162号  
●毎週金曜日発行 ●全てのご家庭に新聞折込と一部宅配でお届け

**松戸東版**

■発行部数 111,500部  
(新聞折込108,000部・宅配3,500部)  
■配布エリア 6号線より東側の松戸市全域  
■発行 株式会社ユースメディア  
千葉県柏市酒井根5-4-10  
TEL:04-7176-2111  
FAX:04-7176-8931  
E-MAIL: [ukiuki@yusmedia.co.jp](mailto:ukiuki@yusmedia.co.jp)

常磐沿線をネットワーク 地域密着型の求人情報紙  
**ユースメディア**  
松戸版・柏版・取手版 毎週日曜日発行  
お申し込みお問合せは  
株式会社ユースメディア ☎04-7176-2111(代)

【エサを自分の手で】  
入场券売り場にかわいいバケツ(1個400円)が並んでいます。中にはバナナ、キャベツ、ニンジン、そしてアヒル用のえさが入っています。この園にいるほとんどの動物にあげることができます。園の中には動物は犬、猫からライオン、ラクダまで500頭羽います。

早速キンリが長い首を伸ばしてお出迎えしてくれます。あまりの迫力に体

が固まつて子供達もニンジンを手に恐る恐る

側に寄つていきます。「マ

ー食べたよ!」ちょっと

ぴりり得意げな表情になつ

ています。



カバのヒッポくんも紹介しておきましょう。水

面に鼻先だけ出して寝て

いましたが、子供の必死

の「ヒップポーーン」の呼

びかけにやつと重い腰を

上げてくれました。柵ギ

リギリ今まで来た途端、ザ

バーッと大きな口を開け

てくれます。後はポイポ

イと口の中をめがけてえ



象のうち、ミッキー、ラ

ンディ、ミニスターとテ

リーの4頭が出演してくれました。この象さん

降つてしまつた為、8頭い

る象のうち、ミッキー、ラ

ンディ、ミニスターとテ

リーの4頭が出演してくれました。この象さん

降つてしまつた為、8頭い







丸ビル  
丸の内ビルディングは、丸ビルの名前で親しまれてきました。誕生したのは1923年(大正12年)2月に竣工しました。東京では家屋の6割以上が焼失、丸の内で



土屋公雄氏

年末・年始の喧嘩も終わり丸ビル界隈も平常の顔に戻りつつあります。今回紹介する土屋公雄さんの作品「丸の内ビルアートプロジェクト『Mの記憶』」は丸ビル1階幸通り側のオフィス・エントランス・ホールで静かに、そして大きなメッセージを伝えています。

『Mの記憶』を紹介する前に旧丸ビルのエピソードを少し話してみたいと思

うです。昭和4年に大ヒットした「東京行進曲」は、菊池寛の同名小説を日活が映画化したときの主題歌です。「恋の丸ビル」あの窓から4階にショッピングモールだったのです。しかし竣工以来70年余りを経て、経年劣化が進行しました。1999年(平成11年)着工、その7ヶ月後の9月1日午前11時58分、未曾有の大震災が関東一円を襲いました。東京では家屋の約30cm、長さ約14mの松杭で3本の松杭によって造られた3本の松杭が倒れました。東京では家屋の6割以上が焼失、丸の内で

## 土屋公雄氏の作品を訪ねて②

# 丸ビル



ドに代表されるよう、古いものをつくるため、新しいものを作ります。この丸ビルアートプロジェクトにおける私の作品のテーマである記憶と、かつての旧丸ビルを構造的に支えてきた基礎としての松杭を利用することで、旧丸ビルの建築的連続性にとどまらず、記憶とは、決して過去のものではなく、未来でつながる創造的なものである。」

いう、自分達の歴史を放棄するものであった。

この丸ビルと共に生きてき

た人々の時代性、時間性

を表現するものである。

旧丸ビルと共に生きてい

る商品のテーマである記憶と

古いものを壊してゆくと

いう、自分達の歴史を放

棄するものであった。

この丸ビルアートプロ

ジェクトにおける私の作

品のテーマである記憶と

古いものを壊してゆくと

いう、自分達の歴史を放

棄するものであった。

この丸ビルアートプロ

ジェクトにおける私の